

【展示室3】 <新収蔵品展> 作品リスト

周南市美術博物館
学芸課

期間: 4月18日(水)~5月20日(日)

月曜休館 ※ただし4月30日(月・休)開館、5月1日(火)休館

寄贈作品...◆ ※展示順とは異なります。

新収蔵作品							
NO.	部門	作家名	作品名【よみ方】	点数	制作年	材質(形状)	サイズ(縦×横 cm)
1	美術	宮崎進	アムール	1	1988~1989(昭和63~平成元)年	ミクストメディア、布、油彩・板	162.0×335.0
2		〃	雑誌「新潮」表紙原画 ◆	16	1980~1981(昭和55~56)年	80年表紙作品(水彩・紙) 81年表紙作品(油彩・キャンバス)	
3		森 寛斎	備後三郎高德之図【びんごさぶろうたかのりのず】	1	制作年不詳	絹本着色	108.0×35.0
4		〃	六曲一双屏風【ろつきよくいつそうびょうぶ】	2	1885(明治18)年	(各)紙本着色	(左隻)169.0×376.0 (右隻)169.0×375.3
5		久保克彦	自画像 ◆	1	1937(昭和12)年	油彩・キャンバス	60.7×50.0
6		〃	静物 ◆	1	1940(昭和15)年	油彩・キャンバス	31.8×40.8
7		〃	自画像 ◆	1	制作年不詳	水彩・紙	36.7×28.3
8		〃	ひまらやしだ ◆	1	制作年不詳	ポスターカラー・紙	30.2×23.0
9		〃	きんぎよをつばき ◆	1	制作年不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0
10		〃	高貴石斛【こうきせっこく】 ◆	1	制作年不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0
11		〃	ごむの芽 ◆	1	制作年不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0
12		〃	からたちのとげ ◆	1	制作年不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0
13		吉田初三郎	港徳山之図【みなととくやまのず】 ◆	1	1947(昭和22)年	絹本着色	64.5×111.0
14	歴史	狩野松洲	吉田松陰像	1	制作年不詳	絹本着色	114.5×35.3
15		〃	高杉晋作像	1	制作年不詳	絹本墨画	45.5×35.5
16	写真	有元伸也	「TOKYO CIRCULATION」 ◆ ※71点のうち10点展示	10	2016(平成28)年	銀塩紙	

計16件

計 41 点

作者略歴

宮崎進
(1922-)

洋画家。徳山町(現・周南市)御弓町生まれ。1942(昭和17)年日本美術学校油絵科を繰り上げ卒業、同年入隊、戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、上京。1957(昭和32)年から1972(昭和47)年まで光風会展に出品。1967(昭和42)年第10回安井曾太郎記念賞。1972(昭和47)～74(昭和49)年渡仏、帰国後はアトリエを鎌倉に移す。1990(平成2)年山口県選奨、1995(平成7)年小山敬三賞、1998(平成10)年芸術選奨文部大臣賞、第47回神奈川文化賞。2007(平成19年)旭日小綬章受賞。現在、周南市美術博物館名誉館長。

森寛斎
(1814-1894)

幕末明治期の日本画家。長州(萩)藩士石田伝内道政(いしだでんないみちまさ)の三男として生まれる。京都で森徹山(もりてつざん)に師事。徹山の養子となる。幕末には国事にも奔走し、勤王志士とも交流があった。1880(明治13)年京都府画学校出仕。1882(明治15)年第一回内国絵画共進会銀賞受賞。1890(明治23)年第三回日本美術協会展「後赤壁図」銀牌。同年帝室技芸員。明治期京都画壇の重鎮。

久保克彦
(1918-1944)

熊毛郡佐賀村(現・平生町)佐合島生まれ。父は俳人の久保白船。1920(大正9)年に徳山に転居。1936(昭和11)年徳山中学校卒業後上京。川端画学校に通う。1938(昭和13)年東京美術学校工芸科図案部に入学。1942(昭和17)年9月同校を繰り上げ卒業し、応召。陸軍松江連隊に入隊。1944(昭和19)年4月中国へ赴き、7月18日中国で戦死。卒業制作の「図案対象」は優秀作品として島田奨学資金賞を受賞、美術学校買い上げとなる。

吉田初三郎
(1884-1955)

大正から昭和にかけて活躍した鳥瞰図絵師。京都生まれ。友禅の図案工などを経て、洋画家を志し関西美術院で絵画を学ぶ。1913(大正2)年に刊行された京阪電車の沿線案内図が、男山八幡宮を訪れた皇太子(のちの昭和天皇)の賞賛を受けたことなどから、パノラマ風の観光案内図の制作を手がけるようになった。生涯において2000点以上の鳥瞰図を作成。大胆なデフォルメを施した独特の絵図は「大正広重」と呼ばれ、鉄道旅行ブームの中で人々の人気を博した。

狩野松洲
(1867-1939)

日本画家。名は定吉。諱を善信。号を松洲という。萩藩の七代藩主重就は元々長府藩主で、長府藩御用絵師の狩野家を萩藩でも召しかかえた。その狩野家の五代政輔の長男として生まれる。萩藩の十三代藩主毛利敬親や十四代藩主元徳など肖像画を多く描いている。

有元伸也
(1971-)

大阪府八尾市生まれ。1994(平成6)年ビジュアルアーツ専門学校大阪卒業、この年初めてインド、チベットに撮影に行き、以後数回にわたり撮影のため同地に赴く。1998(平成10)年「西藏より肖像」で第35回太陽賞受賞。これと時期を前後して大阪から東京に移り東京で都市に生きる人々を撮影。2000(平成12)年から東京ビジュアルアーツ専門学校で講師を務め、2006(平成18)年に設立したギャラリーでの個展を中心に国内外で個展開催やグループ展に出品。2017(平成29)年日本写真協会賞作家賞受賞。